

## 「浦賀の映画学校」のロゴをつくる

こんにちは、「浦賀の映画学校」監督の三好です。先が見えない状況ですが、皆さん元気ですか？監督は松本の自宅で「STAY HOME」しています。家族での時間が増えたので、家の掃除や棚づくり、ごはんの支度など、みんなで手分けしてやっています。そんな中、家族で映画を観る時間が日常的になりました。晩ご飯の後、家族揃って映画を観ています。こんな時だから、明るく家庭的なものを、と思い、山田洋次監督の「家族はつらいよ」などをNetflixで観ています。映画を観ることで、家族の会話も今までと違ったものになってきているのを感じます。「あのセリフの意味は？」「私はこの映画だったら〇〇役が好きだなあ」「どうして人は一人を好きにならなきゃいけないの？」など、哲学的な話にまで広がります（監督には4人の子どもがいます。大学2年、高校3年、高校1年、小学6年です。長男以外の5人暮らしです）。こういった話が年齢や立場に関係なくできるようになるのが映画の面白いところです。お互いの考え方を聞きかけにもなりますね。浦賀小の皆さんも映画を観てくれていると聞きました。家族の会話も増えているといいな、と思っています。次は是非ドキュメンタリー映画にもチャレンジしてみてください。

さて「浦賀の映画学校」の「映画を観る」の次の課題は、「浦賀の映画学校」のロゴをつくる、です。「浦賀の映画学校」は地域映画づくりのための総合的学習の時間の名前です。映画を通して様々な「学び」があるとの考えから名付けました。ロゴをつくるにあたり、どこかに「浦賀らしさ」が入れてほしいと思っています。「浦賀らしさ」は、そこに住んでいる皆さんがよく知っていると思います。あとは「映画」や「学校」という言葉のイメージを膨らませてみてください。

どんな文字にすればいいのか、表現方法は色々あります。筆で描いたり、鉛筆で描いたり、定規使ってサインペンで描いたり、切り絵でかたどってみたり、パソコンの文字で打ってみたり、ソフトで描いてみたり、コンパスで描いたり。今回、つくるロゴは、ポスターやチラシ、缶バッジなどに使っていきます。

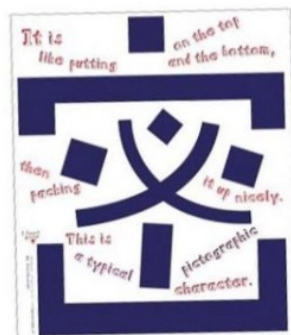
参考に、文字をつくる天才をひとり紹介します。平野甲賀さんという日本を代表する装丁家でグラフィックデザイナーです。本や映画、絵本やイベントなど、あらゆるところで「文字」をつくっています。これまでに7000冊以上の本の文字をデザインしているので、もしかしたら、皆さんもどこかで見たことがあるかもしれません。あるインタビューでこんなことを語っています。

「眺めるほどに、漢字は「絵」だと理解する。たとえば「密」という字だ。うかんむりの蓋と「山」という容れ物が、中身をぎゅっと閉じ込めている。姿がきちんとその文字の意味を表している、それはまさに象形文字だ。じっと向き合っていると、字がもたらす風景がどんどん変わっていく。おまけに、漢字には手がかりがたくさんあるからしめたもの。それぞれがもつ意味を、文字の風景として描いた。」（PAPER SKY/© 2008-2020 Knee High Media. All Rights Reserved.）

平野甲賀の  
描き文字展  
小豆島から台湾へ

2017年3月31日(五) - 5月14日(日)  
緑光+marüte 台中市西區中興一街2號

©Timable Limited



皆さんの創意工夫を楽しみにしています！

令和2年4月24日  
地域映画監督 三好大輔

宿題 「浦賀の映画学校」をイメージしたロゴをデザインしてください。

- ・黒で使うことが多いです。色をつける場合は、黒で使うことも考えて制作してください。
- ・使用する画材はペン、筆、鉛筆、絵の具、クレヨンなど、自由です。
- ・ロゴは、大きく使う時も、小さく使う時もあります。
- ・別紙の「8mmフィルムとは？」を参考に、フィルムやカメラ、映写機の形などを参考にしてみてください。  
(形を使わなくてもOKです)
- ・ロゴが出来上がったら、こだわったところや制作していて発見したことなどを記してください。

キーワード

- ・ 浦賀
- ・ 映画
- ・ 学校
- ・ みんなでつくる
- ・ 8mmフィルム
- ・ 映写機
- ・ 昭和
- ・ 家族の思い出
- ・ 地域の記録
- ・ 地産地消

浦賀の映画学校  
ロゴデザイン

6年\_\_\_\_組

名前 \_\_\_\_\_

<hr/> <hr/>
-------------